

平成 26 年度 福島県

大学生の力を活用した集落活性化調査委託事業 報告書



清泉女子大学 福がーる

牛山結衣 高澤優 浅野汐香

石田絵美 小山田香菜

松田江里菜 佐藤世里彩

目次

1. はじめに
2. 地域概要
3. 集落実態調査内容
4. 調査結果
 - 4.1. 貝泊地区
 - 4.2. 戸草地区
 - 4.3. 井出地区
5. 考察
6. 貝泊集落地域活性化案
7. おわりに

(巻末資料)

- 資料1：アンケート調査質問票
- 資料2：平成26年度活動スケジュール
- 資料3：現地調査スケジュール
- 写真：アンケートの様子

1. はじめに

清泉女子大学福がーる（以下、「福がーる」と略）は、東京都品川区にある清泉女子大学地球市民学科に在籍する学生 7 名（4 年生 2 名、3 年生 4 名、1 年生 1 名）により構成されている。

平成 25 年 5 月、学科教職員の呼びかけで「大学生の力を活用した集落活性化調査委託事業」（以下、「集落調査事業」と略）の存在を知った。また、その際、地球市民学科内には福島県出身者が数名おり、皆が同じように、東日本大震災以降「(地元である福島に対して)何かしてみたい!」と考えている仲間であるということがわかった。そうしたことが契機となり、福島県出身者を中心とするメンバーが集まり活動するに至った。平成 25 年度は 6 名で活動をしていたが、平成 26 年度には福島出身の新入生 1 名が加入し、現在計 7 名で活動している。

平成 25 年度から福島県いわき市田人町貝泊集落で活動をしている。1 年目の活動で、地域の住民たちと交流を深めていくうちに、地域のリーダーのみが地域活性化に積極的であるとう声を聞いた。そこで 2 年目は、住民全員に、地域の暮らしや自治体、活性化についてどのように思っているのか調査することにした。本報告書は、平成 26 年度の福がーるの現地調査の内容とその成果を記したものである。

本稿では、2 章では地域概要について説明し、3 章では現地調査の概要、4 章で調査結果を述べ、5 章で調査結果の考察、6 章で考察をふまえた活性化案を述べる。

2. 地域概要

まず、福が一が調査を行った、福島県いわき市田人町にある貝泊地区について概要を述べる（巻末「資料 1」データを参照のこと）。

貝泊集落は福島県いわき市の田人町の中にある（図 1）。田人町は中通りと茨城県に面した南西部の地域であり、6つの地域（旅人、石住、南大平、黒田、荷路夫、貝泊）から構成されている。その内、ひとつが貝泊集落である。また、貝泊地区内でも、貝泊・戸草・井出の3つの集落に分かれている。集落全体が山の中にある。

図 1 いわき市田人町の位置



（出典：いわき市ホームページより）

集落の面積は 39.75 平方キロメートル、農地面積は 1.98 平方キロメートルである。現在は、農地面積の 3 分の 1 が耕作放棄地となっている。

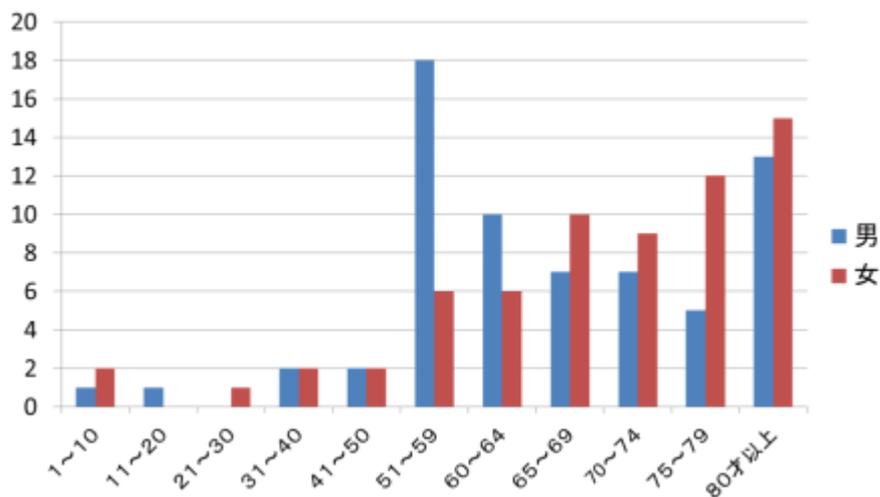
集落の人口は平成に入り減少し続けており、福がーるが調査に入った平成 25 年 7 月時点では人口が 131 名（世帯数 61）であった。平成 26 年 8 月現在では、人口 117 名（世帯数 55 世帯）とさらに減少している。

そのうち 65 歳以上が 60 名であり、総人口の約 6 割を 65 歳以上の高齢者が占めている（図 2）

平成 24 年 3 月 11 日、東日本大震災が発生し、22 名（5 世帯）が避難をし、他の地域に移り住んでいる。

また、現在、貝泊地区に居住している I ターン者は 25 名（10 世帯）である。

グラフ 1 貝泊集落の年齢別グラフ



（筆者作成）

平成 15 年度に貝泊集落の住民組織「貝泊コイコイ倶楽部」が発足。貝泊コイコイ倶楽部は、地元の小中学校の存続と地域の活性化を目的として活動を行っている。貝泊地区に在住する全世帯が加入している（平成 25 年度現在）。

3. 集落实態調査内容

福がーるは、いわき市田人町貝泊集落に、平成 26 年夏（8 月 24～26 日）に調査を実施した。年間スケジュールは以下の通りである。

貝泊集落をメンバー全員で訪問し視察を行った調査について、内容を記載していく。

平成 26 年 8 月 24 日～26 日の現地調査では、地域住民全員に対し、地域活性化に関するアンケート調査を実施した。アンケート調査の実施理由としては、昨年のヒアリング調査から、地域の方々が自分の住む地域に対して問題意識を持っていないことが課題として挙げられたためである。住民全員に地域活性化に関するアンケート調査を行うことで、改めて自分たちの住む地域に対してどのように考えているかを聞き出すことがねらいであった。

アンケートでは、主に 3 つの項目についてうかがった。一つ目は暮らしの満足度、二つ目は地域活性化、三つ目は地域の自治組織であるコイコイ倶楽部についてである（詳しくは巻末資料 1）。

メンバー 11 名（鈴木教授、横山助手、矢田助手、長島由佳コーディネーター¹を含む）を 3 地区に分配し、各地域住民からの話が聴けるように設定した。昨年は、地域住民全員にお話をうかがうことができなかったため、今年は全世帯からお話をうかがうことを目標に、一人当たり 30 分から 1 時間程度、地域住民の方々の家を回った。また、1 日目の夜には、住民の方々との意見交換の場としてバーベキューが行われたため、その際にもお話を聞き、なるべく多くの情報を得ることとした。

最終日の 3 日目には、住民の方との交流を目的に、週 1 回集会所で開催されている健康体操に参加した。

¹ 清泉女子大学地球新学科卒業生。平成 23 年より 3 年間、茨城県常陸太田市里美地区の地域協力隊として活動。その後一般社団法人 常陸太田市観光物産協会 教育旅行・民泊地域コーディネーターを務めている。

4. 調査結果

今回の調査では、55世帯（117名）中36世帯（47名）から調査結果を得ることができた。

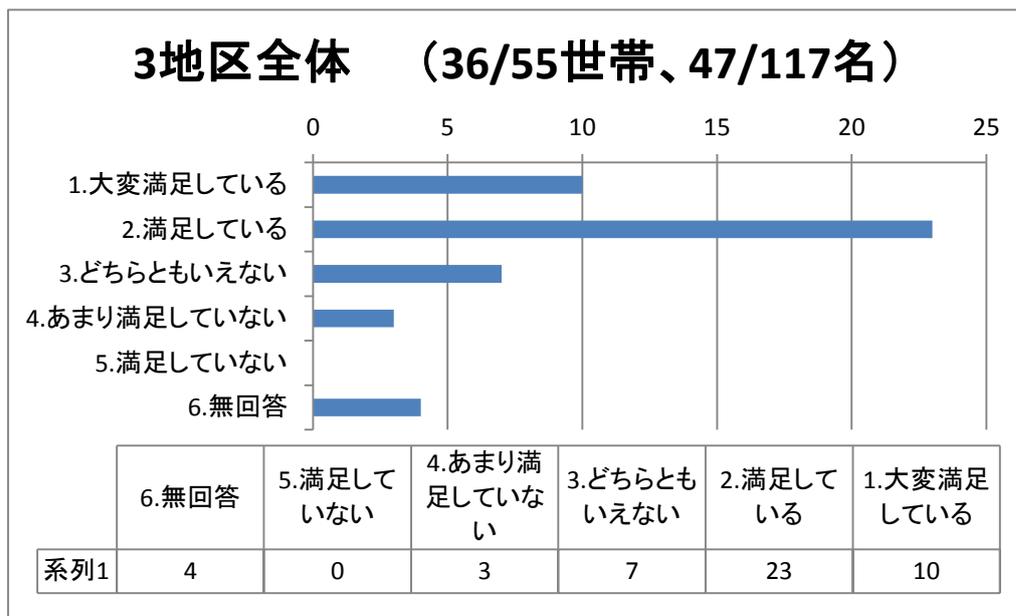
調査結果は、①暮らしの満足度、②コイコイ倶楽部の定例会参加率、③地域活性化に対する住民の考えについて、それぞれを表、またはグラフにまとめて提示する。今回の地域活性化は、「住民の増加」「観光客の増加」「知名度」「交通便の向上」「特産物の開発」「商業系」とする。

それらをまず、3地域全体の結果をまとめて述べていく。次いで、3地域別（貝泊・戸草・井出）に分けて、地域ごとの特徴を分析していく。

4.1. 3地区全体の調査結果

①暮らしの満足度

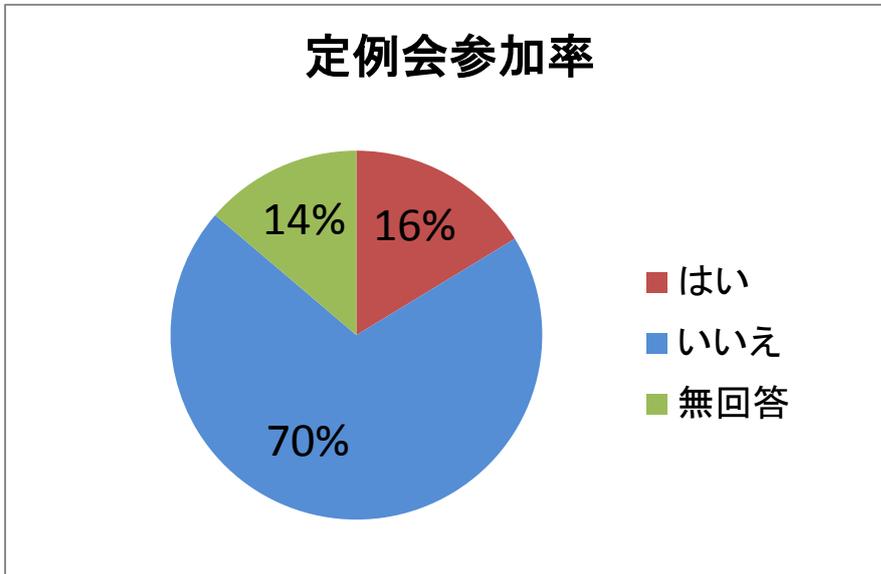
表1 暮らしの満足度（3地区）



（アンケート結果より筆者作成）

②コイコイ倶楽部の定例会参加率

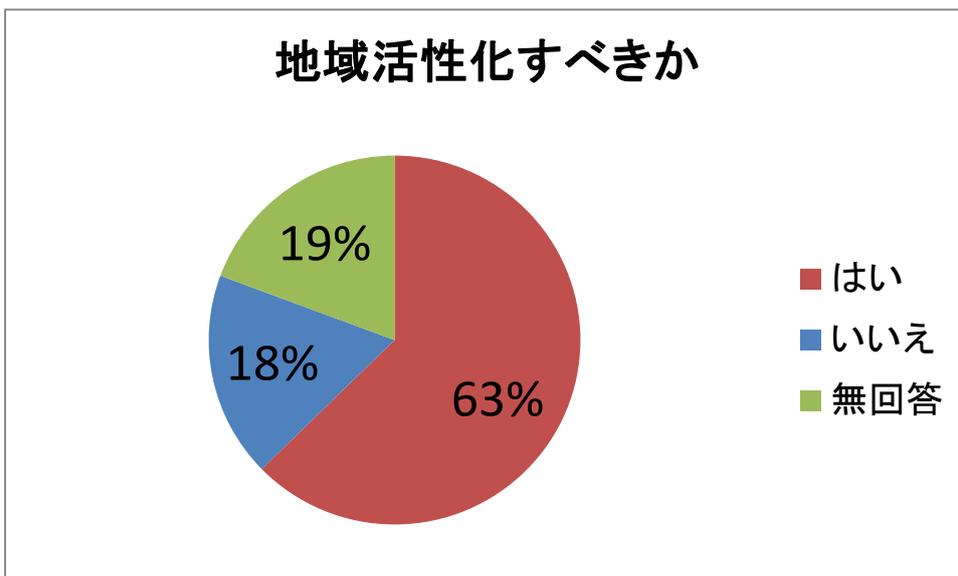
グラフ2 定例会参加率



(アンケート結果より筆者作成)

③地域活性化

グラフ3 地域活性化すべきか



(アンケート結果より筆者作成)

4.2. 貝泊地域

貝泊地域は、3 地域のなかでも最も世帯数・人口が多い。今回は、23 世帯中 12 世帯、55 名中 14 名に調査した。

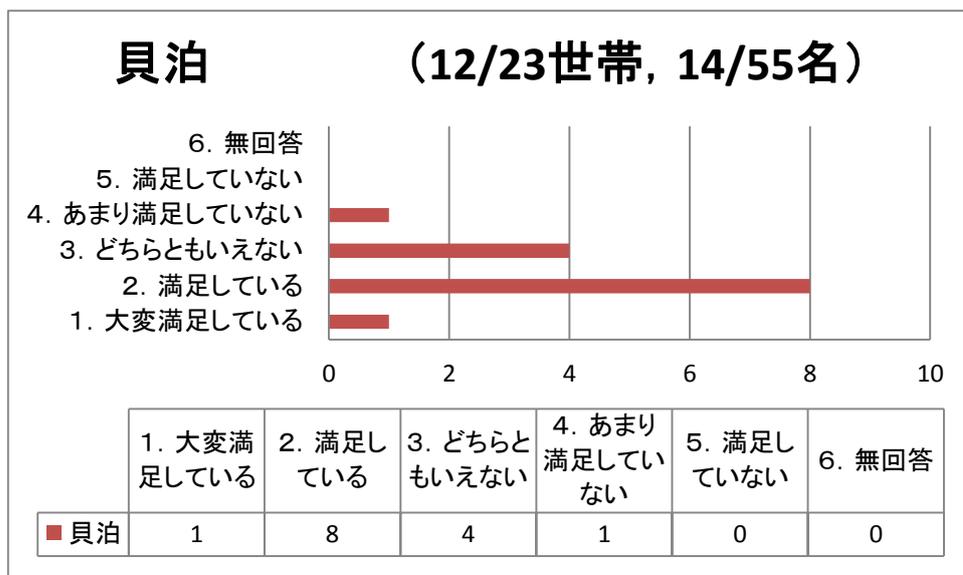
以下、貝泊地域での調査結果である。

①暮らしの満足度

表 1 によると、14 名中 9 名と全体の半数が地域での暮らしに満足していることが分かる。戸草・貝泊地区と比べると、比較的平地で、集会所等が近く、行事ごとやイトーヨーカドーの訪問販売にも行きやすい点も満足している要因であると考えられる。

多くの人々が、「長年住んでいる」「自然・水がきれいで豊か」「人との繋がりが強い」などの理由で今の暮らしに不満は感じていない。しかし、人との繋がりが強すぎて、言いたいことが「言いづらい」といった声もあがった。

表 2 暮らしの満足度



(アンケート結果より筆者作成)

〈住民の意見〉

・満昔は都会に行きたいと感じていたが、今はずっとここで暮らしていこうと思っている。

地域の良いところは人間関係を深く築けるところ。(60歳代・男性)

・人の繋がりが強いことは良いことだが、買い物に出掛けるのにも交通面で不便である。(60歳代・男性)

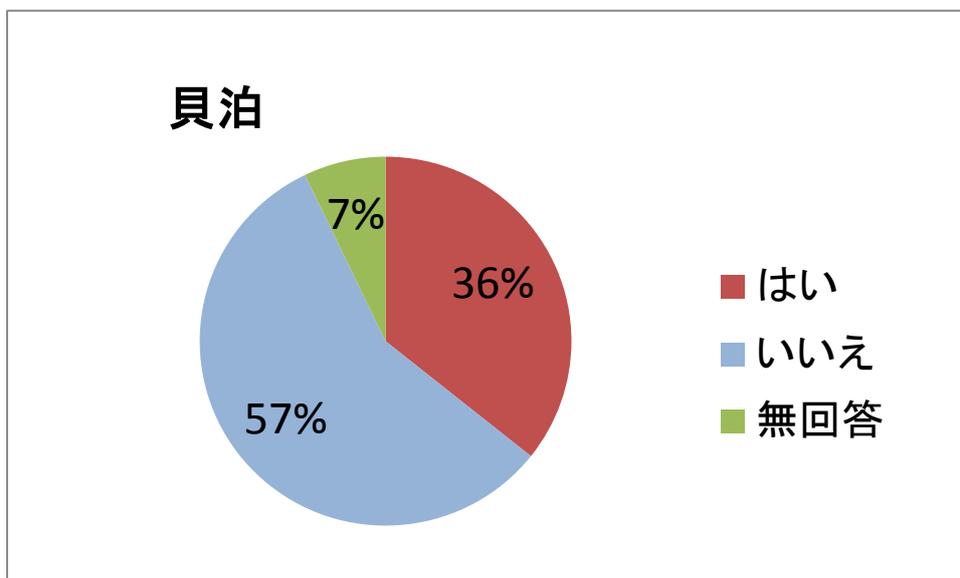
・地域の繋がりが強いことは良いことだが、その分かえって言いづらいこともある。(60歳代・女性)

②コイコイ倶楽部の定例会参加率

グラフ 1 より、定例会への参加は 36%であり、半数以上が参加していないことが分かる。

しかし、3地区のなかでは、貝泊地区が一番多く住民が定例会に参加している。

グラフ 4 定例会参加率



(アンケート結果より筆者作成)

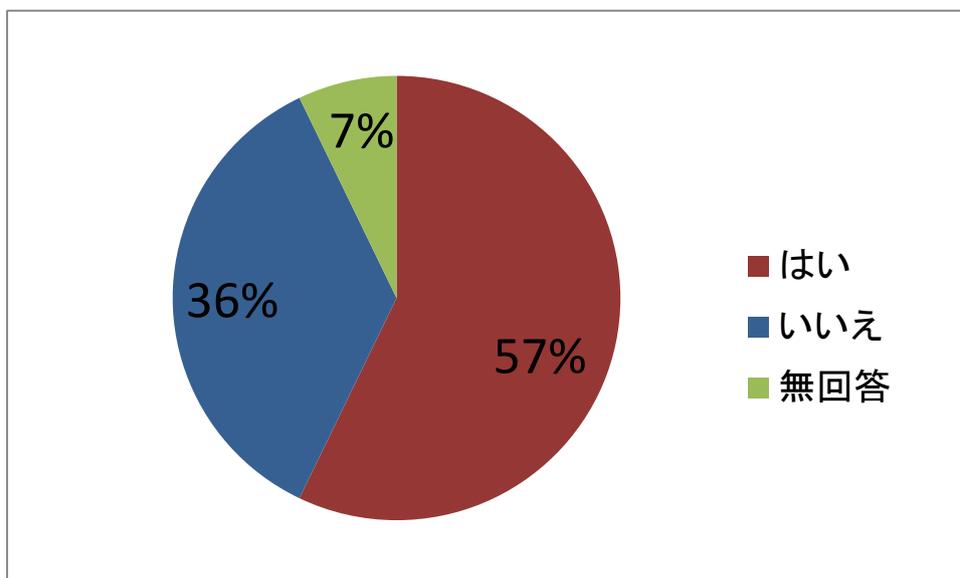
〈住民の意見〉

- この地域では昔からの長い付き合いでなかなか言いづらいことが多々ある。(60代・女性)
- 中心となってくれる人がいるので参加しやすい
- 付き合いがあるため参加。
- 以前は参加していたが、自分の意見は反映されないことに不信感を抱いたので今は参加していない。

③地域活性化

グラフ3によると、約6割の住民が地域活性化をすべきと考えている。しかし、地域活性化すべきではないと考えている人が約4割と、3地区内で最も多い。

グラフ5 地域活性化すべきか（貝泊）



(アンケート結果より筆者作成)

<住民の意見>

・山ぼうしの家がせっかくあるので、そこに来てくれる人が増えたら嬉しい。震災前こそは観光客が活用してくれていたが、今やその観光客の姿はほとんどない。

地域を活性化するためには自分では具体的に考えられないが、山ぼうしを活用することが良いと思う。(60歳代・女性)

・震災による風評被害や小学校が閉校になってしまったことがこの地域が元気でなくなってしまった一番の要因であり、地域住民皆が楽しめる場所がなくなってきている。また、活性化といっても難しいところはある。というのは、将来息子と一緒に暮らすことになれば自分はここを出ていこうから、地域を活性化するといっても参加していくことが難しくなるのではないか。(60歳代・男性)

・定住者希望でなくとも、大学生がこうしてわざわざ来てくれて、話を聞いてくれるのは嬉しい、ここの地域の人たちでない分、普段思っていることを素直に話すことができ良かった。(60代・女性)

4.2. 戸草地域

戸草では 16 世帯中 13 世帯、29 名中 18 名に調査した。

以下、戸草地域での調査結果である。

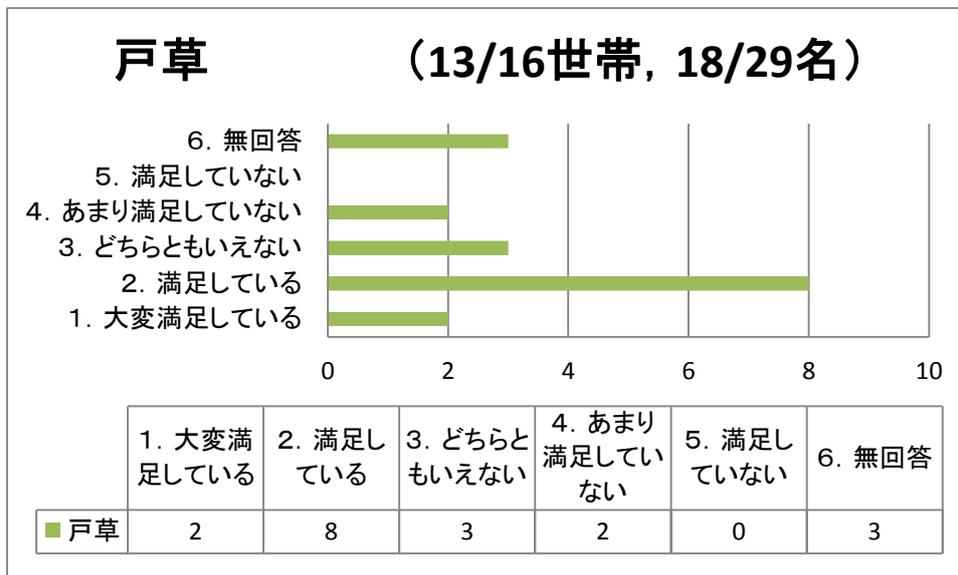
①暮らしの満足度

表 2 より、満足している人は 18 名中 10 名ととても多く、今の生活に満足していない人はあまりいない結果となった。

貝泊地区同様、多くの人が、「空気、水はきれい」「近所の人で親身で助け合える」と今の生活に満足している。

あまり満足していない人たちは、「交通面」が不便、「後継者」がいないなどの問題を感じている。

表 3 暮らしの満足度



(アンケート結果より筆者作成)

〈住民の意見〉

- ・自然が豊かでのどかに生活できることが良い。

「遠くの親戚より近くの他人」という言葉通り、みんな助け合ってくれ、地域が協力して生活している。つながりが強い。(50 歳代・男性)

- ・空気が良い。夏は涼しく過ごせるのが良いところ。町から遠く、病院に行くのも時間がかかるため不便。(80 歳代・女性)

・満足しているとは言えない。先代が貝泊に来て 100 年以上となるのに、後継者がいない。しかし、満足せざるを得ない。自然が豊かであることと、住民同士のきずながよいところ。

(80 歳代・男性)

- ・満足している。近所の人に非常によくしてもらっており、畑や田んぼも教えてもらっている。いい人が多い。(60 歳代・男性)

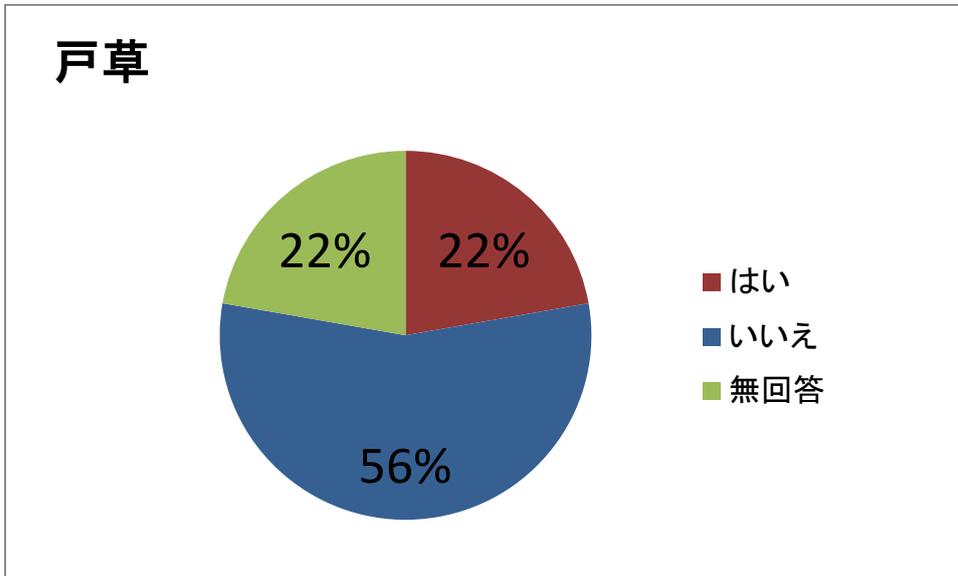
②コイコイ倶楽部

コイコイ倶楽部については全住民が知っているものの、定例会への参加率は約 2 割と非常に少ない。

戸草地区では、以前は定例会に参加していたが、年齢とともに参加しなくなっていったという傾向がみられる。

そのため、比較的若い住民は、なるべく参加しようと感じている。しかし、参加者が減少したことで、参加者の負担が多くなっていることも現状であるようだ。

グラフ6 定例会参加率



(アンケート結果より筆者作成)

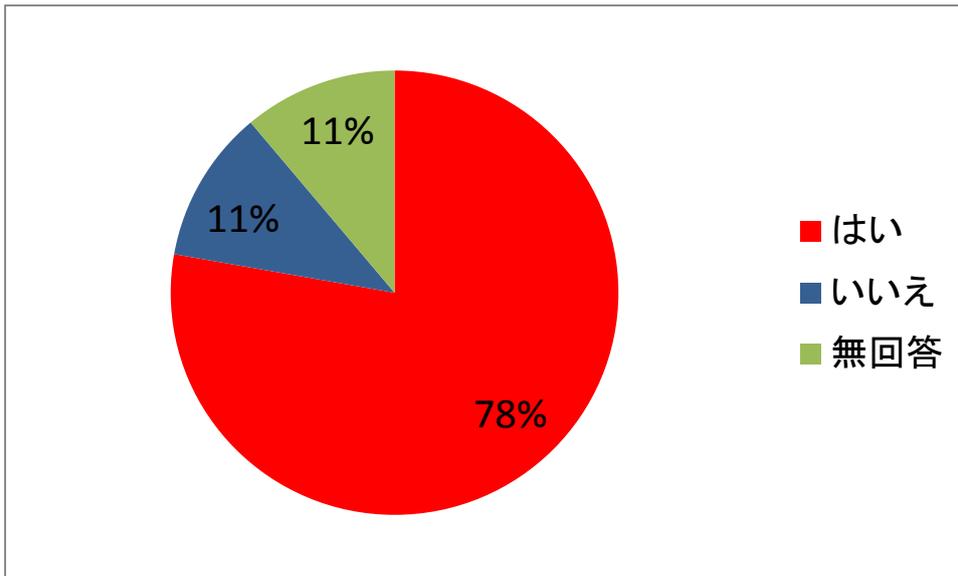
〈住民の意見〉

- ・積極的に集まりに参加しています。高齢化が進んでしまっているため、年齢的に若い自分が動かなくなければならないのが大変だ。(50歳代・男性)
- ・定例会には参加していないが興味はある。(60歳代・男性)
- ・年とともに参加できなくなった。(80歳代・男性)
- ・定例会には足が悪いため参加していない。以前は自分で作った野菜をわたぼうしの家に出していた。しかし震災後は山菜やキノコが採れないので、並ぶ商品も少なくなった。(80歳代・女性)

③地域活性化

グラフ5より、約8割の住民が活性化すべきと回答している。3地区内で最も多い。

グラフ7 地域活性化すべきか（戸草）



（アンケート結果より筆者作成）

<住民の意見>

・お年寄りが住みやすい場所になることが地域活性化だと思う。この貝泊地区は車がなければ病院や、買い物に行くことも難しく、またお年寄りが家に一人での状況も多い。この環境を改善し、住みやすく安心できると地域活性化につながるのではないかということだった。（50歳代・男性）

・イトーヨーカ堂の移動販売も行っているが、多くの人々が「車がないと販売場所までいけない」、「出勤している時間帯で利用できない」、「1か所だけでなく、数か所に移動して販売してほしい」という声があがった。

・職場が近くにあたり、小学校もあればもう少し人通りが多くなってにぎやかになるの

ではないか、一方で、人通りが多くなったり、観光客が来たりすると貝泊の自然を荒らされてしまうのではないかという心配もある。

- ・ 小学校の閉校は決まってしまったので、その学校の土地を利用してなにかを行ったり、使っていない農地を利用したりなど、貝泊への呼び込みは可能ではないか。(60代・男性)

- ・ 活性化はあまり望んでいない。観光客が来るのは良いが、外部からの居住者は近所と打ち解けないなど悪いイメージがあるため、そんな人が来るならば来ないでほしい。外部の人が勝手に山菜を取って、それを売りに出されていた時があったが、気分が悪かった。(80歳代・女性)

- ・ 地域活性化とは、外部の人が来ること。観光客や住民が増えれば地域は賑やかになり、元気になる。コイコイクラブを中心に活動すべきである。住民になる人は、良い人なら歓迎する。(80歳代・男性)

- ・ Iターン者は、変り者・怠け者が多く、交流もない人が多いイメージである。そういう人でなければ住民になってもいいとは思う。地域活性化とは、後継者がおり若者が活発であること。活性化はするべきだが、高齢化した今のままでは限界があり、今後が心配である。また、仕事場が近いことと、若い人の定住も重要。(80歳代・男性)

- ・ 活性化とは若い人が増えること。しかし今のままではお年寄りばかりで限界があり、たかが知れている。行政がもっと積極的に動かなければならない。(60歳代・男性)

- ・ 住民全員が活性化に対する意見をもっているはずなので、全員で協力すべき。

- ・ 観光客より、移住者がほしい。

- ・ 廃校になった小学校や農地の活用。それには住民全員の賛成が必要。話し合いの場もある。

4.3. 井出地域

井出地域では、16世帯中11世帯、33名中15名に調査した。

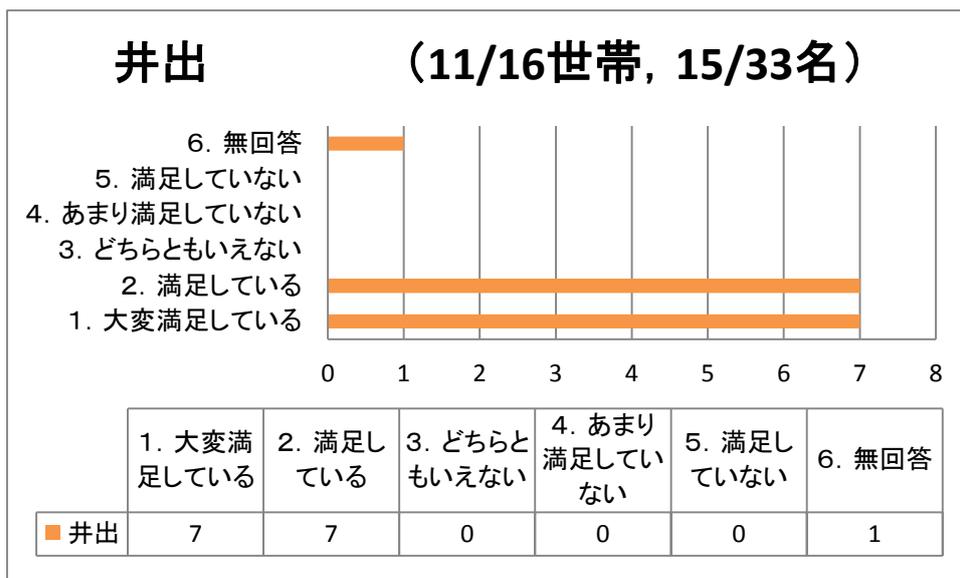
以下、井出地域の調査結果である。

①暮らしの満足度

井出地区では、無回答一名を除き、全員が「満足している」という回答を得た。これは3地区のなかで、一番地域での生活に満足していることになる。

貝泊・戸草地区同様、自然の豊かさや空気・水がきれいに住みやすいという意見が多い。

表4 暮らしの満足度



(アンケート結果より筆者作成)

〈住民の意見〉

・60代女性は、貝泊の良いところは、自然と水と空気だが、それを貝泊以外の人に広めるのは難しいのではないか。(60歳代・女性)

・今の暮らしには満足しているが、一人では買い物ができない。(80歳代・女性)

・井出の人はみんないい人。

戸草や貝泊は遠いので、ほとんど関わりがない。(60歳代・男性)

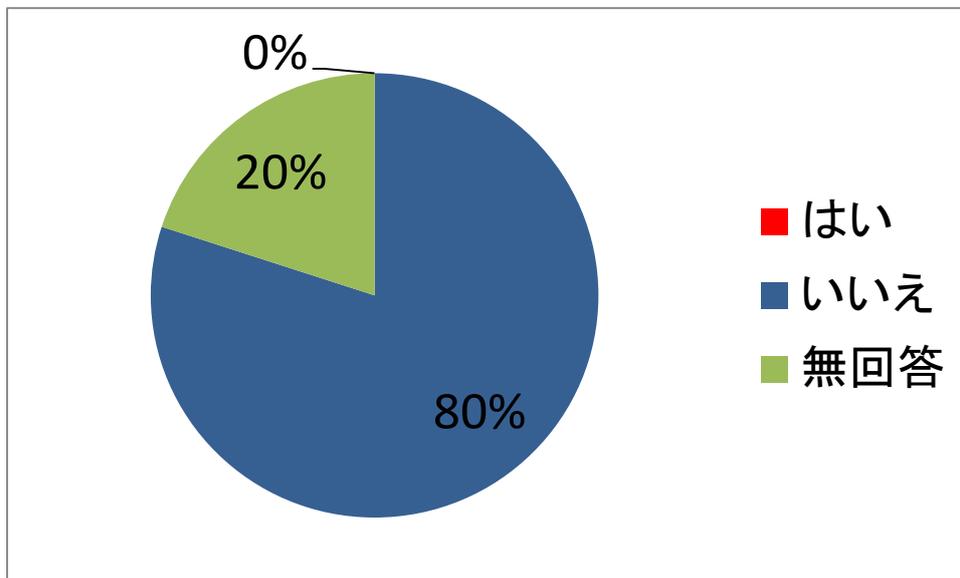
②コイコイ倶楽部

グラフ3によると、井出地域では1人も定例会には参加していないことが分かる。

その原因として、井出地域は、山の上にあるという点があげられる。定例会が開催される場所まで遠いことがあげられる。

また、定例会には貝泊と戸草の人々が参加するものであると考えている住民もいる。

グラフ8 定例会参加率



(アンケート結果より筆者作成)

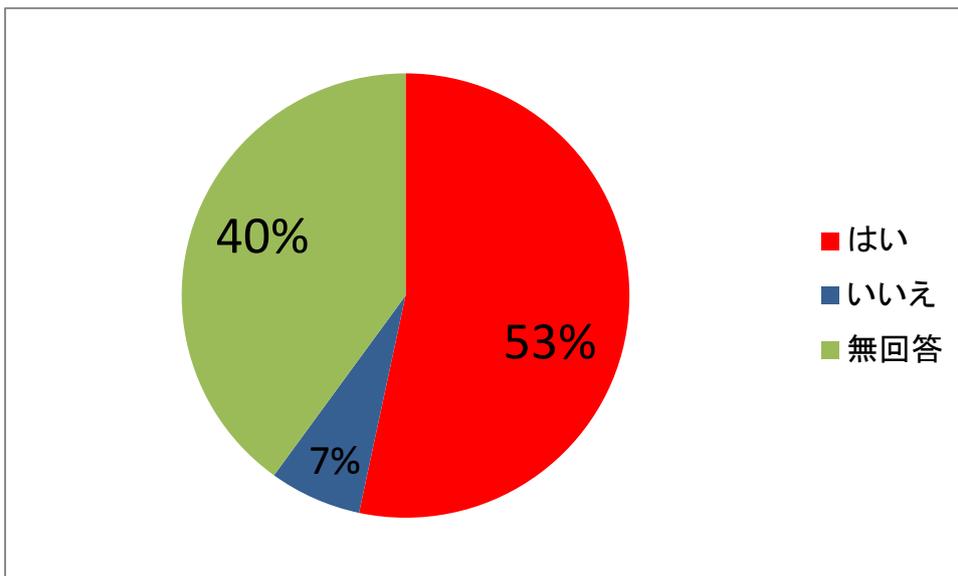
〈住民の意見〉

- コイコイ倶楽部の定例会には参加していない。集会所は井出から遠く、戸草と貝泊地区の人たちだけが参加するので行きづらい。(80歳代・女性)
- 以前はコイコイ倶楽部で積極的に活動していたが、役員に不満があり、今は興味もないと話していた。コイコイ倶楽部の活動や定例会には参加していない。(60歳代・女性)
- 遠いので、一人ではいけない。(80歳代・男性)

③地域活性化

グラフ7より、約5割が活性化すべきと考えている。

グラフ9 地域活性化すべきか（井出）



(アンケート結果より筆者作成)

<住民の意見>

- 活性化はすべきだが、実際、貝泊に魅力がないのではないか。(60 歳代・女性)
- 活性化したら、地域の人が大変だからしなくてもいいと思う。やるなら、住民の人が楽しいと思えるようなものにしたらいい。(60 歳代・男性)
- 地元の若者は仕事もあって地域活性化に関わる暇もないと思うので。1 ターン者や時間のある住民が行ったらいいのではないか。(60 歳代・男性)
- 原子力発電の事故による風評被害を解決すべき。
それには県や国がもっと動くべき (60 歳代・男性)
- 静かに暮らしたいので活性化しなくていい。(60 歳代・男性)
- 仕事がないので、定住者を増やすのは無理だろう。(70 歳代・男性)
- 定住希望者に土地を貸す人がいないのが問題なのではないか。(60 代・男性)
- 若い人が地域にかかわれば活性化できるのではないか
- 地域がにぎやかになってほしい
- コイコイクラブや住民が自らやるべき
- 地域の魅力をあまり他人に伝えようとは思わない
- 変な人が定住してくるのは嫌だが、活性化はしてほしい

5. 考察

調査結果より、以下のことが考えられる。

(1) 地域住民の満足度

満足度が全体的に高いことがわかる。貝泊地区は 64 パーセント、戸草は 55 パーセントの住民が満足しており、特に井出は 100 パーセントの満足度である。実際に現地で調査をし、利便性が低い地域であるが、住民の 9 割が満足している。

(2) コイコイ倶楽部の定例会参加率

コイコイ倶楽部の定例会参加率の低さが目立つ。

参加率が高い順は、井出（0 パーセント）＜戸草（22 パーセント）＜貝泊（36 パーセント）である。定例会の開催されている集会所は、貝泊地区内にあり、順序と距離は比例しているのではないかと考えられる。特に井出地区は参加率が 0 パーセントであるのは、地理的に遠いことも関係している。

(3) 地域活性化

地域活性化に当たっては、全体的に約 6～7 割が活性化すべきと回答している（貝泊 57 パーセント、戸草 78 パーセント、井出 53 パーセント）どのように活性化すべきかという具体例をこたえる住民は少なかった。

また、住民の中でも外部の人間（I ターン者）に対する意見が多様であることがわかる。外から移り住んだ人に対し嫌悪感がある住民もいれば、その人たちをまきこむことで地域が盛り上がるという意見もある。多様な意見があるなかで、どのように住民全員が納得できる活性化案を作るかが問題である。

（４）建物の活用

既存の建物が使用されていない現状が、調査で分かった。例えば、平成 26 年度から使用されていない小学校や、毎週日曜日以外営業していない山ぼうしの家である。今回の調査で、地域住民は、それらの建物を積極的に活用したいと思っていることが分かった。

以上から、①井出の住民の参加できる、②外部の人と良いコミュニケーションがとれる、③既存の建物を使用する、福が一層が考える地域活性化案を提示する。

6. 貝泊集落地域活性化案

今回の調査で様々な家庭を訪問し、貝泊地区のお宝として「地域の方の手料理」が魅力だと考えた。なぜなら、現地でのフィールドワークの中で、地域の方々がたくさんの手料理をごちそうしてくださった。例えば、おこわや手作りのジャム、カボチャの煮つけ、きゅうりやみょうが、ナスのお漬物、などが挙げられる。これらはすべてが手作りで、今まで食べたことのない味付けであった。そこで、私たちは地域の方の手料理を利用した地域活性化案を提案する。

(1) 「山ぼうしの家」の活用

貝泊地区には、地域の農産物の直売所として活用されている「山ぼうしの家」がある。外部からの人はもちろん、地域の人々が集まる場所でもあることから、地域住民と協力して、ここを拠点としたイベントを企画・開催する。

(2) 田人地区で開催されるイベントへの参加

昨年の夏には貝泊地区にある廃校になった小学校でのキャンプイベントが行われた。こうした地域住民が集まるイベントで、地域のお母さん方の手料理を提供する機会を設ける。その際には私たちも一緒に参加し、訪れた観光客や地域の方々との交流を深める。

また、来年度の予定としては、地球市民学科の卒業生の組織である「つなぐ会」や地域の自治組織である「コイコイ倶楽部」、田人町役場など、さまざまな方と協働し、イベントを検討中である。

7. おわりに

1年目の活動を経て、継続的に地域住民の方々に会い、お話しを聴き交流を深めて行きたいと考えていたが、結果として全員では1度しか訪れることができなかった。しかしながら、今夏の2泊3日の調査で1軒1軒の家庭をまわったことにより、昨年よりもより多くの住民の方々とお話しすることができた。それぞれの方々からたくさんの意見をいただき、貝泊地区の住民が考える良いところや問題点、また、住民の方々の活性化に対する意識を知ることにより、今後の活動に役立てていきたいと考えた。1年目で集落実態調査、2年目で住民の方への聞き取り調査を行い、2年かけて地域の方に寄り添った調査を行うことができた。2年間の集落復興事業の活動は終了となったが、私たち福が一は今後も貝泊地区の住民の方と関わりを持ち、新たな事業として貝泊地区で活動を続けていきたい。

【謝辞】

調査にご協力いただきました貝泊集落区長の芳賀廣海さん、いわき市役所田人支所（貝泊集落の住民である）助川洋一さんをはじめ、集落の皆様には大変お世話になりました。私たちが温かく迎えサポートしていただき、本当にありがとうございました。

また、本事業全体を通して、福島県企画調整部地域振興課の職員のみなさん、引率して下さった清泉女子大学文学部地球市民学科教授の鈴木直喜先生、地球市民学科研究室助手の横山由紀さん、矢田紀子さん、卒業生である長島由佳さんには大変お世話になりました。ここにて、御礼申し上げます。

(巻末資料)

資料 1：アンケート調査質問票

年齢 10代・20代・30代・40代・50代

60代・70代・80代・90以上

性別 男・女

職業 会社員・自営業（ ）

農業（収入有・無）・無職

地区 戸草・井出・貝泊

家族 名 一世帯・二世帯

私情

1、 貝泊に暮らしてどれくらいか。

（ ）年（具体的に： ）

2、 今の暮らしの満足度は。

1 2 3 4 5

（理由： ）

コイコイ倶楽部

3、 コイコイ倶楽部の存在は知っていますか

はい いいえ

4、 コイコイ倶楽部で積極的に活動しているのは誰ですか

()

5、 活動内容(=目的)は知っていますか

はい いいえ

6、 定例会に参加していますか

はい いいえ

(理由:)

7、 活動に興味はありますか

はい いいえ

(理由:)

貝泊

8、 貝泊の良いところはなんですか。

自然 人 特産品 食 水 その他()

9、 それを貝泊地区以外の人に広めたいと思いますか

はい いいえ

(理由:)

10、 貝泊に定住者(家族以外)は増えてほしいですか

はい いいえ

(理由：)

1 1、貝泊に観光客は増えてほしいですか。

はい いいえ

(理由：)

活性化

1 2、あなたが思う地域活性化とはなんですか。

住民の増加 観光客の増加 知名度 交通便の向上 特産物の開発
商業系 その他 ()

1 3、地域活性化をするべきだと思いますか。

はい いいえ

(理由：)

1 4、活性化はだれがやるべきだと思いますか。

行政 コイコイクラブ 外部の人 ボランティア 住民 その他 ()

1 5、活性化をするにあたってどのようなことを求めますか。

住民の増加 観光客の増加 知名度 交通便の向上 特産物の開発
商業系 その他 ()

資料2：平成26年度活動スケジュール

(1) 事前調査（平成26年8月）

集落代表者、いわき市田人町役場職員、コイコイ倶楽部役員と面談

(2) 事前集落勉強会実施（平成26年5月21～8月22日まで計8回）

(3) 現地調査実施（平成26年8月24日～26日）

(4) 集落勉強会、提案内容審議

（平成26年10月1日～平成26年12月3日まで計10回）

(5) 調査報告会（平成26年12月20日）

(6) 調査報告書のまとめ

資料3：現地調査のスケジュール

8月24日

時間	予定	場所、その他
9:30	JRつくば駅集合	レンタカー2台にて移動
12:00	昼食	レストラン「ほうき星」
13:30～	到着 調査開始	貝泊：高澤、牛山、佐藤、長島 戸草：石田、小山田、矢田 井出：浅野、松田、横山、鈴木 (レンタカー・徒歩にて移動)
18:00	調査終了	「星の森」集合
18:30	バーベキュー	「星の森」

		住民の方との交流
22:00	ミーティング	
24:00	就寝	

8月25日

時間	内容	場所、その他
8:00	起床・朝食	自炊
10:00	調査開始	
12:00	昼食	星の森
~17:00	調査終了	星の森集合
18:00	夕食	田人地区内の「のんき」にて
22:00	ミーティング	
24:00	就寝	

8月26日

時間	内容	場所、その他
8:00	起床・朝食	星の森
10:00	健康体操参加	貝泊集会所
12:00	貝泊出発	
16:00	つくば到着・解散	

写真：活動の様子



(平成26年8月24日、撮影：長島)



(平成26年8月25日、撮影：長島)



(平成26年8月26日、撮影：長島)